

平成 27 年度第 1 回十日町市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成 27 年 5 月 18 日(月) 午後 3 時～

2. 会 場 十日町市役所 3 階全員協議会室

3. 出席者 市長 関口 芳史
教育長 蔵品 泰治
教育委員 山口 由美子
教育委員 吉楽 隆一
教育委員 庭野 三省
教育委員 佐藤 美佐子

説明のために出席する者

教育次長	富井 敏	教育総務課長	高橋 義孝
学校教育課長	島田 敏夫	指導管理主事	川崎 正男
生涯学習課長	大島 満	文化財課長	佐野 誠市
スポーツ振興課長	井川 純宏	教育総務課長補佐	長谷川 芳子

事務局

総務部長	中村 亨	企画政策課長	渡辺 健一
企画政策課参事	渡辺 正彦	企画政策課主任	星名 学

4. 議 題 (1) 十日町市総合教育会議について

①概要について

②大綱の策定について

③設置要綱(案)について

(2) 十日町市の学校教育の現状と課題について

(3) その他

【会議資料】

○議題(1) 資料 1 十日町市総合教育会議について

資料 2 十日町市総合教育会議設置要綱(案)

○議題(2) 資料 3～8 十日町市学校教育の現状と課題(十日町市教育委員会)

中村総務部長（開会）

関口市長（あいさつ）

本日、蔵品教育長が新しい教育委員会制度の教育長として就任され、教育委員会制度は新制度に移行しました。本日市長として、新教育長として任命させていただきました。皆様からも宜しくお願ひしたいと思ひます。

そして、教育改革のもう一つの大きな柱であります、総合教育会議を本日開催することになりました。ご存じのとおり、総合教育会議の目的は、市長と教育委員会の皆様が同一の認識のもと一致協力しながら教育行政に当たっていくために開催するものです。

十日町市としては、ありがたい形で教育行政を進めてきたと感じています。これまで教育委員会とは、色々と懇談を行うなど意見交換をさせてきていただいたわけですが、これからは正式に教育委員会の皆様と意見交換ができるということで、これまでも増して教育行政に係る情報や方向性を共有し、教育行政を積極的に推進してまいりたいと思っております。

また、特に市長就任以降、小中一貫教育のことを皆様にご理解をいただいた中で推進してまいりました。そのことを改めて感謝を申し上げますが、なぜこれを行わなければならなかったという事としては、子供たちが楽しいことだけではなく苦しんでいることもあります。例えば不登校、いじめ問題のような課題の解決にむけては現場で解決しなければならないわけです。ただ、先生方が大変お忙しい中でご活躍されています。その中でも、根本的な解決に至らない場合があるのではないかと感じることもあるわけです。先生方は益々忙しくなるけれども、組織のあり方、根本的なことへ時間を振り向けていただきたいという思いがあります。日々新たな課題も生まれますが、それらの課題も解決には時間がかかるのは承知していますが、新たな教育委員会制度の中で、教育委員会と学校の現場が一体となるということは、先生方にも子どもたちにも好ましい体制ができたのではないかと感じています。是非そのようなこともご意見いただきながら、今まで以上に積極的に取り組んでいただければと思ひます。

我々の最終的な目標は、「ふるさとを愛し、自立して社会で生き抜くことのできる子どもたち」を教育することです。十日町市の学校教育の目当てですが、ぜひ、将来にわたって十日町市を愛し、盛り立ててくれる人材を育てていきたいと思ひます。委員の皆様からもご指導いただきまして、私も市長として教育の問題に全身全霊で取り組みますことをお誓ひ申し上げます、第1回の総合教育会議の開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

蔵品教育長（あいさつ）

本日午前に、関口市長から新しい教育委員会制度に基づく教育長就任について辞令をいただきました。改めて責任の重大さを痛感している所ではありますが、与えられた3年間の任期を誠心誠意努め、より良い教育行政をめざし指揮をとってまいりたいと考えております。

今、市政の大方針は「選ばれて住み継がれる十日町市を実現すること」にあります。市民ニーズに即したより質の高い学校教育、社会教育という市民サービスを提供できるよう

に心がけまして、人材を育て、まちづくりに貢献していきたいと念願をしております。

また、教育行政の課題に立ち向かい、現状を変え、より良き方向に進んでいくためには、市長及び各部局との連携強化は重要なことでもあります。この意味においても、この度、総合教育会議という公式の協議の場が設けられたことは歓迎するものであります。

私ども教育委員会のメンバーは、総合教育会議の場を活用し、関口市長とこれまで以上に意思疎通を図らせていただきまして、十日町市の教育課題や取り組むべき方向性を共有しつつ教育行政を積極的に推進していきたいと考えております。

中村総務部長

それではこれ以降は、市長から本会議の進行をお願いいたします。

関口市長

それでは、次第が用意されておりますので、次第のとおり議事に進みたいと思います。議事の1についてですが、資料があるようです。資料1の説明を事務局からお願いいたします。

(企画政策課の渡辺企画政策課長が、議題(1)について資料1・2に基づいて、一括説明する。以下省略)

関口市長

総合計画が12月までに策定予定ですが、それをベースにして策定するというのでしょうか。(⇒そのとおりです) 皆さんからご意見ありますでしょうか。いかがでしょうか。

庭野委員

方針の「総合計画の素案」については、いつ頃できるのですか？

渡辺企画政策課長

12月の議会に上程して審議いただく予定としておりますので、遅くとも11月頃までには、はっきりとしてくると思います。

庭野委員

その前に我々委員は、素案を見ることができるようでしょうか？議会の審議前に我々が意見できるのかを確認させていただきたい。

渡辺企画政策課長

総合計画については、山口委員から教育委員の代表としても総合計画審議会の委員となつて議論いただいています。山口さんを経由してからでも結構ですし、直接皆様に資料を

ご提示させていただくこともできます。

関口市長

総合計画について、これは確認ですが、分野はどのように分かれていたのですか。

佐藤企画政策係長

総合計画の中では、「ひとにやさしいまちづくり」「活力ある元気なまちづくり」といった分野に分かれているのですが、教育については幅広の分野に分かれています。例えばスポーツ・文化などのことについては、「活力ある元気なまちづくり」というところに含まれておりますし、学校教育については、「ひとにやさしいまちづくり」という分野に分かれるなど、それぞれの分野に散りばめられています。大綱を策定するにあたっては、それぞれの分野における教育に関することをピックアップし、エキスを抜き出して大綱を作るといふ、そのようなイメージでおります。

富井教育次長

事前に委員の皆さんにご説明を、という部分につきましては、総合計画に盛り込む教育の分野については、これからの定例教育委員会でも適宜提示し、皆様のご意見、ご意向をお伺いしながらとりまとめをし、それを総合計画策定作業の中に盛り込んでいただきたいと思います。補足ですが、よろしく願いいたします。

関口市長

5年間の基本計画のはずでしたが、構想等が、どのようになっていたか委員の皆さんに事務局は説明をお願いします。

渡辺企画政策課長

はい。総合計画は基本構想のもとに、基本計画があります。基本構想は、28～37年の10年間、基本計画は5年ごとに前期、後期と分かれています。そのうち議会で議決いただくのは、構想だけとなっております。

関口市長

大綱のベースになるのは、基本構想の部分でしょうか。

渡辺企画政策課長

基本的にはそのようになると考えております。

関口市長

了解しました。よろしいでしょうか。それでは、設置要綱についての案の方ですが、このように進めてよろしいでしょうか。(一同承認)

ありがとうございます。それでは会議の運営については、今後この要綱に基づき行ってまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

関口市長

次に議題の2「学校教育の現状と課題について」について、お願いいたします。
(島田学校教育課長が資料3～8を基に概要を一括説明する。説明内容は省略)

関口市長

それでは、委員の皆さんからまずどうぞ。

山口委員

学力向上を目指している訳ですが、国では、「脱ゆとり」といいますか、自ら考えさせるということを模索しているように感じます。アクティブラーニングということで、自分で考え行動して体験して学習するといった、そのような子どもたちを創ろうとしています。十日町市も小中一貫教育を通じて、是非そういった方向を目指したいと思います。

蔵品教育長

アクティブラーニングについては国が進めていまして、自ら考え、生き抜くという姿勢が非常に大事だということでございます。そんな中、このことで先般、松之山中学校区では文科省の方をお呼びして、私も教育次長もお聞きし非常に感銘を受けてまいりました。十日町市としましても、なんらかな形でアクティブラーニングの導入について検討していきたいと思っております。

庭野委員

国レベルでの教育のターゲットは「高等教育」。高等学校の授業を改善しなければどうしようもないという状況があります。実際に私もかつての津南高校と十日町高校の授業を見たことがあります。大変でした。中学校の授業をどう変えられるか、中等教育をどのように変えていくか、そこが問われるのではないかと感じています。それを具体的にどのようにするかという話は、また議論になるところですが、根っこはそこだと思います。

関口市長

これについては私もお話しさせていただきますが、教育長、教育委員会の皆さんには、是非とも高等学校との連携について、しっかりできないものかというお話を先だって投げ

かけさせていただいたところです。以前、七尾市の取組みの話をお聞きする機会があり、県立高校の校長先生自らが、市立の中学校の生徒に対してこんな意識をもって、こんな勉強をして学校に上がってきてほしいといったアプローチする場があるといった話でして、お聞きし、とても感銘を受けました。残念ながら十日町市教育委員会からすると、守備範囲は小・中学校となっているわけですし、その先の高等教育は新潟県に頑張って貰いたいといったことはありがちだと思いますが、当然に教育は連続して切れ目なく続くわけですので、その意識づけが必要なのではないかと思います。そのことから、教育長も高校に対してのアプローチをしていただいたとお聞きしましたが、どうでしたでしょうか。

蔵品教育長

小中一貫教育という事で、当市は小・中学校の連携を上手くやりながら、学力の向上、いじめや不登校の改善に向けて真剣に取り組んでいるところです。また、その下の方と上の方の連携も非常に大事であると思っております。「幼児教育」そして、小・中学校、「高等学校」の部分であります。先般、次長と共に十日町高校に行き、その辺の考え方について、校長先生と懇談をさせていただきました。校長先生もご理解があつて、以前から必要があれば教員を小・中学校に派遣しますよというお話をいただいています。そのようなことを通し、密接に協力、連携していければよいなと思っております。

庭野委員

資料6の体力のことですが、課題のところにある「自信を持たせる」という事について、自信の持たせ方が具体的でないと、子どもたちは意欲をもたないと思います。福井県の教育はトップクラス、いろいろな取組みをしています。小さい県でやり易いかもしれないが、産業面や地域づくりの面でも、教育に対し、いろいろなことを実践しています。自信の持たせ方について、校長会等でも指導していただきたいことだと思います。

島田学校教育課長

正直、この点については校長会等でも取り上げてこなかったことですので、お話のありましたことについて、校長会等でも取り上げ教員に指導していきたいと思えます。

関口市長

吉田のクロスカントリーもひとつの例ですが、あれだけの小さな学校で、地域の努力、ご尽力もあり、実績を挙げておられます。それだけでなく、ほかの地域でも実際には頑張っていることが沢山あります。それはひとつの合併の効果です。中里ではこう頑張っている、松代ではこう頑張っている、そういったことをお互い知ることも大事だと思います。

佐藤委員

松代・松之山地域では、その地域だけを捉えると、まとまりがあって、縦の連携が良い一方、市街地と若干離れているために少し遅れをとるといえるか、一緒に行動できない部分があるように感じます。子どもたちの絶対数も少なく、運動で言えば団体競技とかは学校の子どもたちだけで野球、サッカーなどチームは作れない、また十日町地域のようにチームがいっぱいあって身近で腕を競い合うということができずにいて、高校に行った時に子どもたちに力の差があったりします。人数で参加しづらい部分は地域でまとまるしかないかなと思いますが、この総合教育会議の機会をいただいて、そのことをどう解決しようか、考えています。

蔵品教育長

松代・松之山地域の子どもたちですが、人数は確かに減っていて、学童の部分は、十日町地域に交じって参加している例もあります。参加のチャンスが与えられるように、これからもご相談に応じて行けたらと考えております。

吉楽委員

私も中里地域に住む者ですが、佐藤委員のお話は良くわかります。そこに住む者としては寂しく大変な面を感じたりもしますが、冷静になると少子高齢化のスピードが進んでいるものですから、冒頭の資料にもありますが、そのような状況の中でもできるだけ集団生活、集団活動を与えること、将来への夢を持つこと、夢を持つにはこういった努力をしていかなければならないよということ。次の進学なりに示唆するものだと思います。他地域間での交流の場というのは、大変でしょうが、教育委員会等と相談して、用意してあげなければならない事だと思います。

山口委員

小中一貫教育をやっていくということがとても満足感が高くて、すごいなと思ったのですが、そのことは万能ではありませんので、9年間を一気にすることの弊害もあるよということも意識して、今お話のあった交流をしたり、未来をみるようなキャリア教育をしたりといったことを意識していくことが大事かなと思います。

吉楽委員

課題といますか、私が個人で思うのが、十日町の地域で最高の教育という資格が取れるとか、国家資格を持つとかだと思います。大学はともかくとして、専門学校教育になるのでしょうか、コンパクトにできるだけ自分の地域の中で通える、子どもが通って授業を受けられるような体制づくりを、と思います。ネットや通信教育の発達も確かにありますが、そのような中でも地方都市の魅力ある講座がそこにある、そういったことも近い将来を見

越して準備に入っていないと、人口流出が止まらないのかなと私は思っております。

関口市長

今のお話ですけれども、ひとつに高校卒業後の高等教育という観点ですが、ご承知とは思いますが、看護師を目指す皆さんには夢のある話が県の方で進んでいまして、大変ありがたいお話です。以前にもこの地には、例えば織物がある、繊維産業がある、例えばコモ市との交流があるといった観点で、素晴らしいものがあるではないかと、そのような中で専門学校、大学を創ったらよいではないかといったご提案をいただくこともあったのです。いろんな観点があると思います。自然を活かしたビジネス、観光、雪のこともあるかもしれませんが、この地での魅力ですとか、勉強できる場所といったものが、ひとつできたらまたもう1つチャレンジすべきタイミングにきているのではないかと考えています。

関口市長

いろいろなご意見を交わさせていただきました。そろそろ時間となるようですので、議題3のその他に進めさせていただきたいと思います。事務局で何かありますでしょうか。

中村総務部長

事務局では特にございません。

中村総務部長

それでは以上をもちまして、第1回十日町市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。